

ワクワクする地域活動を行い、 釧路元町エリアの魅力を活かして釧路の未来につなげる！

くしろ元町青年団

【くしろ元町青年団とは】

くしろ元町青年団は2015年に発足した市民団体で、「くしろ元町に若者・子育て世代も来て、みんなが過ごしたくなるマチづくり」をコンセプトに活動しています。

当団体の団長を務める菊池吉史氏は、釧路発祥の地と言われる釧路市米町で、江戸時代から続く釧路の守り神として鎮座する釧路巖島神社の神職です。代々神職の家系に生まれ、この地で高校時代まで過ごした後東京に進学し、7年後に釧路市に戻ってきました。

驚いたことに、そのころ、釧路発祥の地である釧路市米町付近は、海沿いの美しい景観に恵まれ、6つのお寺と1つの神社が立ち並ぶ、「文化・歴史・景観」の3要素の魅力が詰まった、釧路にとって宝物のような地域であるにも関わらず、2015年までの10年間に20代、30代の人口が半減していました。「どうにかしてこのマチを元気にできないか」と悶々としていたある日、毎年釧路に長期滞在する元大学教授から「仕事で世界中を飛び回ったが、釧路の街並みはまるでパリのようだ。街なかに情緒あふれるセーヌ川のような川が流れ、素晴らしい丘や坂道がある。お寺や神社が連なり、街の歴史も感じられる。なんともったいない。廃れていく街を傍観しているだけの釧路の若者たちは、一体なにをしているのだ」。雷に打たれたような衝撃を受けた団長は、「自分がやらなきゃ、この素晴らしい地域は、誰も住まなくなってしまう。自分がやらねば、誰がやる！」と意気込み、釧路発祥の地域に「元町」と愛称を付け、地域の若者たちと「くしろ元町青年団」を結成し活動をスタートしました。

活動の柱は二つです。一つは、魅力溢れる元町エリアに「行きたい！」と感じてもらうために様々な“情報発信”を行うこと。二つ目は、「元町エリアで楽しく

過ごしたい！」と感じてもらうための“コミュニティづくり”を行うこと。これらの活動を通して、元町エリアから釧路全体の活性化にも繋がると確信しています。

【活動内容①～くしろ元町エリアの情報発信～】

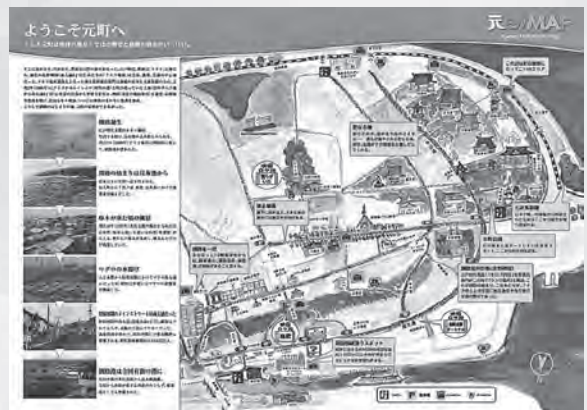
活動を開始した翌年の2016年には元町住民に集ってもらい、元町地域に関する意見交換を2回開催しました。その結果、「元町は魅力がたくさんあるのに知られていない。知る手段もない」ということがわかりました。それならば、地元向けと観光客向けとのターゲット別に情報を集め、発信する必要があるという結論に至り、地元民向けの地域情報誌『くしろ元町マニア』と、観光客向けの『くしろ元町マップ』を作成することに。しかし、作成資金もなく、まずは地域のお祭りや花火大会で「やきとり1本100円」を売ることで資金を集め、作成することができました。

今は釧路駅や幣舞橋の観光案内ガイドステーションなど様々な場所で配布され、累計発行部数は2万部を超え、今や、元町マップを片手に日本人観光客のみならず、英語版の元町マップを手にした人までもが元町に訪れるようになりました。

また、定期的に「元町講座」を開催しています。「くしろ元町エリアの魅力を発信するためには、まず元町の歴史や魅力を自分たちが知らなければならない！」と考え、地域住民と一緒に勉強する機会を設けようと立ち上げました。この講座に若者たちにも参加を促すため、お招きした講師には「小難しい話はせずに、若者が楽しめる内容でお願いします」と毎回無茶なお願いをして講師を困らせています。それが功を奏してか、いしかわたくぼく、石川啄木について学んだ回は、石川啄木のダメなエピソードをたくさん教えてもらったり、身近に飛んでい



くしろ元町青年団～弁天ヶ浜で再現した踏切を背にジャンプ！～



くしろ元町マップ

る元町の野鳥について学んだりなど、地域の大学生も巻き込んだカジュアルな講座として定着しました。多いときは160名近くの参加がありました。

地域のありのままの魅力を歩いて楽しむ「フットパス」イベントも人気です。このイベントは、ただ地域を歩くだけではありません。地域住民も観光客も一緒になって歩き、写真を撮りながら歩く回や、俳句を詠みながら歩く回、元町エリアのおすすめスポットが描かれたトレーディングカードを集めながら親子で歩く回など、楽しみながら歩いて地域の魅力を発見できるように趣向を凝らして企画しています。定期的に開催し、多いときには50名ほどの参加者が集います。

2019年3月には、元町エリアのランドマークとなっていた臨港鉄道の踏み切りとレールが撤去される、というショッキングな出来事がありました。弁天ヶ浜のキラキラと光る海を背景にそびえたつ黄色と黒の踏切の警報機は、元町エリアの象徴の一つでもあったため、慣れ親しんだ風景が様変わりし、地域の人たちは悲しみと驚きに包まれました。そこで我々が立ち上がり、まずは弁天ヶ浜の踏切の警報機をモニュメントとして復活させるため、再現に取り組みました。

設置費用として、1口1,000円の募金協力をお願いしたところ、私たちの熱意に多くの方々の賛同をいただき2020年10月には予定額の100万円を上回る170万円の募金が集まり、復活させることができました。また、臨港鉄道跡地の有効活用を願って青年団が作詞、釧路出身の作曲家・ピアニストの木原健太郎氏が作曲の元町のテーマソング「つなぐ道」が完成しました。今も石炭列車跡地の遊歩道化の実現に向け、行政との連携も目指して邁進しています。



くしろ元町を走っていた石炭列車

その他にも公式LINEアカウントを始め、各SNSで日々イベント情報や地域の情報を自ら発信しています。また、YouTubeチャンネルを開設して若者向けに地域情報をバラエティ番組のように編集し、新たな元町ファンを生み出せるよう配信しています。

また、釧路を訪れた外国人にも元町を堪能してもら

おうと、元町エリアの神社とお寺を巡る「くしろ元町外国人ツアー」を開催しています。厳島神社で着物の着付けをして、神職自らが神社の社殿でお参りの作法を伝授。茶道と和菓子を堪能した後は、お寺へ移動して、お坊さんと一緒に参加した外国人皆が「ポク、ポク、ポク…」木魚を叩きながらお参りをしたり、書道体験をしたりと、京都や奈良では実現できないような距離感の近いおもてなしをしています。

【活動内容@くしろ元町エリアのコミュニティづくり～】

「くしろ元町エリアでもっと楽しく過ごしたい」というファンを増やすため、若い世代の新たな繋がりや仲間づくりを目的として定期的に「元町飲み会」や「元町パーティー」も企画し開催しています。パーティーでは、元町にあるダンスホールを貸し切り大学生グループとの共催で、約120名が参加いただきました。

また、月1回開催しているイベント「ゆるゆるラン&ウォーク（通称ゆるラン）」も人気です。これは、元町発着で誘導灯とベストを着用し、夜回りパトロールをします。体力に合わせ、ランチームとウォークチームの2チームに分かれ、終了後はホームパーティー形式で懇親会も開催し、親睦を深めています。

その他、元町エリア内のお寺（大成寺・本行寺）の大広間を会場に、大人300円、子供100円で地域食堂を2カ月ごとに開催しています。子どもの遊びコーナー、フリマコーナーの設置や、1月には餅つきを行うなど季節に合わせたメニューづくりを意識しており、多くの市民が集うコミュニティの場になっています。

【最後に】

くしろ元町青年団の活動の輪が広がり、2023年の末には、私たちの活動を評価していただき、2023年11月24日に国土交通大臣から「手づくり故郷賞」という荣誉ある賞をいただくことができました。

「釧路には何も無い」と嘆く地域の人の声をよく耳にします。しかし、私たちは釧路の元町エリアから釧路の魅力を発信し、誰もが胸を張って暮らせるような釧路を目指して楽しみながら活動を続けていきます。地域の子どもたちが「釧路って、どこにも負けない最高のまちだよ」と胸を張って暮らせる未来のために。



<https://x.com/946motomachi>